

国立病院機構熊本医療センター

No.188



発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

くまびょうNEWS

平成24年度 第2回 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成24年度第2回（通算34回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が、来る2月16日（土）午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールで開催されます。

今回は、症例呈示、病院からの連絡事項、総合討論に続き、特別講演が行われます。看護部門、事務

部門、MSWの方々のご参加も歓迎致します。多数のご参加をお願い致します。

当日、会場にて登録医の新規登録も受付致します。ご希望の先生は会場受付でお申し出下さい。

（副院長 野村 一俊）

第34回開放型病院連絡会のご案内

日時：平成25年2月16日（土）午後6時30分～8時00分
場所：国立病院機構熊本医療センター（2階 地域医療研修センター）

－ 内 容 －

（1）開放型病院連絡会総会

①症例呈示

「麻薬常用者における感染性心内膜炎の一例」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

「ドクターヘリで搬送し救命できた左主幹部急性心筋梗塞の一例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

②病院からの連絡事項

「インターネットによる地域連携システムについて」

国立病院機構熊本医療センター統括診療部長

片渕 茂

（2）特別講演

「今後の医療提供体制について」

厚生労働省医政局総務課 保健医療技術調整官

佐々木 孝治 先生

【参加申し込み】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501内線2311（中村・富田）

基 本 理 念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運 営 方 針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「感謝と提案だぜえ」

末次内科医院

院長 田淵 博孝

熊本市西区の高橋稲荷神社の近所にあります末次内科医院（有床診療所）の田淵と申します。植木病院での平成13年1月から18年3月までの5年間と、当院に勤務してからの7年間の合わせて12年の長きにわたり、「熊本医療センターの城下町」で安心して診療をさせて頂いております。植木病院に赴任した際に上司から「高度専門医療が必要な時は国立熊本病院に紹介するとよい。」「紹介した患者さんはいつでも戻ってこられる体制を必ず作っておくこと。」と指導され、この教えを今も守っています。時には無理難題のような患者さんを紹介するのですが、いつも快く引き受けてくださり、頭が下がるばかりです。お陰様で「なんでも来い！」と虎の威を借る狐でいられます（この勢いで題もワイルドになってしまいました）。おそらく僻地で医療をするなら、「Don't 来い」と意気消沈していることでしょう。

熊本医療センターの各科の先生方やスタッフの皆様方は大変お忙しい日々をお過ごしのこととお察しします。行きつけの飲み屋のマスターは「国立の〇〇先生も〇〇先生もお忙しいようでご無沙汰です。」といつも話しています。出席率は私が断トツであり、大変申し訳なく感じております。

さて、これ程お世話になっておきながら、熊本医療センター主催の勉強会にほとんど参加していないこともあり、実は中の様子を極めて部分的にしか理解していません。くまびょうニュースや、各科の先生方の関心領域は拝見していますが、何か記号的で無機質な印象です。ドライな情報は学会誌や医師会雑誌にまかせて、県内屈指の技術や機械の熱い自慢話や、Hotな診療体験、よくある誤診や失敗例などを、この「くまびょうニュース」で掲載して下さると、熊本医療センターをもっと身近に感じることができると思います。

最後になりましたが、熊本医療センターのますますのご発展と、先生方やスタッフの皆様方のご健康をお祈り申し上げます。



当院2012年忘年会の出し物「EXILE」より

くまびょうニュースへのご寄稿、また貴重なご提案ありがとうございました。今後のくまびょうニュースの編集に参考にさせていただきます。

平成24年度 第2回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成24年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月17日（月）午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、野村副院長、高橋副院長、片淵統括診療部長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

清村会長、河野院長からのあいさつの後、議事に入りました。まず当院の歯科紹介率の議題では中島部長から、紹介率は横ばいであるが、実数が増えていることが報告されました。

次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、高橋副院長より今年はずでに11月までで200件と昨年を大幅に上回る件数であることが示されました。

続いて毎年好評で参加者の多い救急蘇生講習会について、来年度も11月14日（木）に開催されることと、さらに歯科関係の講演として医歯連携セミナー

3回、熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナーが6回開催されることが報告されました。

最後に野村副院長から、平成24年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が2月16日（土）午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）



連絡協議会の様子

外来紹介

泌尿器科・産婦人科



泌尿器科外来スタッフ

泌尿器科外来では、特に尿路・性器腫瘍（腎細胞癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌・前立腺癌、精巣癌）の診断・治療に力を入れています。その他良性疾患のうち生活の質（QOL）に影響を及ぼすとされる前立腺肥大症や神経因性膀胱、女性の尿失禁や骨盤臓器脱から小児の先天異常（停留睾丸や陰嚢水腫など）や検診で指摘された尿潜血精密検査まで泌尿器科全般に渡り診療しています。

当科の患者様に対してはプライバシーの配慮に心がけ、中待合室にご案内をしています。



診察中の
菊川医師（上）
陣内医師（右）

また、一般の診察に処置・検査のため外来の待ち時間が長くないように努力しております。

患者様には御迷惑をおかけしておりますが、お一人お一人の患者様とご家族様に安心して安全な医療と細やかな看護をご提供できるように日々心がけております。お気軽に相談、連絡頂きますようお願いいたします。
(泌尿器科外来看護師 柴田 喜美子)

産婦人科外来ではおもに悪性腫瘍の診断および治療を行っています。

緊急手術等が必要な救急患者、精神疾患合併妊娠、分娩の対応もしています。

当院の2011年産婦人科悪性腫瘍新患治療数（子宮頸癌 0期+子宮頸部浸潤癌+子宮体癌+卵巣癌）は200例を越え九州地区ではトップクラスです。

外来では不安な思いを抱え来院される患者様お一人一人の気持ちを汲みとりながら、まずは正確な診断のもと、患者様及びご家族の意志を尊重した治療の選択が出来るよう心がけています。近年、入院日数の短縮に伴い外来が担う役割は増し、外来化学療法をはじめ術後の生活指導、緩和医療の導入、「私のカルテ」の運用も含めた後方連携の充実等取り組むべき課題も多数あります。

当院はがん診療連携拠点病院でもあり相談支援センターのスタッフをはじめ、専門・認定看護師、化学療法センターとも連携し、他職種による大きな枠組みで患者様のニーズに添った質の高い医療が提供できるよう努力していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

(産婦人科外来看護師 志垣 恵子)



産婦人科外来スタッフ

2013

診療科紹介 (57)

神経内科



医長
田北 智裕
神経内科、脳血管障害
日本神経学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本内科学会認定医



医長
俵 哲
神経内科
日本神経学会専門医
日本内科学会指導医・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本頭痛学会専門医



医師
幸崎 弥之助
神経内科、脳血管障害
日本神経学会専門医
日本内科学会指導医・認定医
日本内科学会総合内科専門医
日本脳卒中学会専門医
日本救急医学会専門医

診療内容と特色

神経内科疾患全般を取扱っていますが、当院が救急病院ということもあり、入院中心の診療を行い、脳梗塞、てんかん、髄膜炎などの救急疾患が多い特色があります。

外来では、パーキンソン病を含めた神経難病や、頭痛・めまいなどの機能的疾患についても幅広く対応しております。日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定教育病院に認定されています。



医師
小阪 崇幸
神経内科
日本神経学会専門医
日本内科学会認定医



医師
米持 康寛
神経内科

診療実績

平成23年度の新入院患者数は639人です。前年度より107人増加しています。平均在院日数は16.0日となっております。

研究実績

日常臨床を重視して、様々な神経疾患症例の臨床研究を行っています。脳卒中分野のNHO研究ネットワークグループに所属し、他施設との共同研究にも参画しています。日本神経学会、日本脳卒中学会、その他の学会や研究会にも積極的に参加し、発表など行っております。

ご案内

神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、骨格筋が障害される疾患を扱っています。外来診療に関しましては、木曜日以外の平日を俵哲医長が担当し、火曜日と金曜日はそれぞれ幸崎医師、小阪医師も担当し、二人体制になっております。木曜日は田北医長が担当しています。入院診療に関しましては、田北・幸崎・小阪・米持のスタッフ4名にて診療しております。

時間外及び休日の急患につきましては、on call体制にて対応しております。

当科に関連すると思われるような疾患につきましては、いつでも御紹介、御相談いただければ幸いです。

熊病の歴史

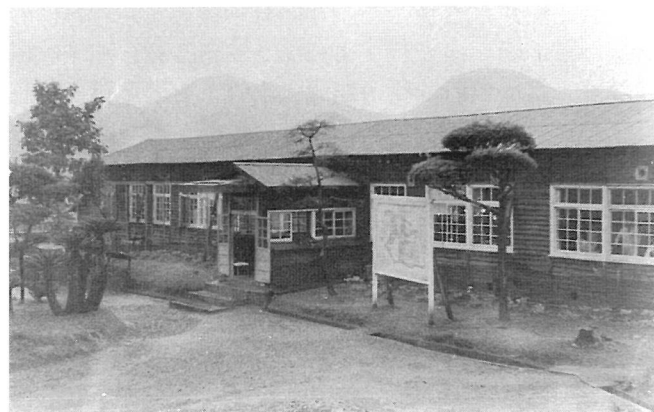
皮膚科

日本の「皮膚科学」は土肥慶蔵博士が1893年に欧州に留学し1898年に帰国した時に始まりました。博士はカボジ肉腫を発見したモーリッツ・カボジらの下で皮膚科学、黴（梅）毒学、泌尿器科学を学びました。当時は梅毒が重要な疾患だったこともあり日本では皮膚泌尿器科として発展していきました。熊本大学でも1920年に皮膚泌尿器科学講座が開講、1960年に皮膚科と泌尿器科が分離しましたが、今でもたまたま皮膚泌尿器科の標榜を目にするのはその名残です。

1945年12月1日に熊本陸軍第一病院が厚生省に移管、「国立熊本病院」が誕生しました。当時より軍医による皮膚科泌尿器科の診療はあったものの陣容、設備とも専門医療には程遠い状況でした。しかし1947年6月23日に中村家政先生、後の熊本大学皮膚科第3代教授、が初代医長に着任し当科（皮膚泌尿器科）が正式に発足してからは設備も拡充されていきました。泌尿器科手術も積極的に行われ、病床も手術症例で満床だったそうです。中村先生の熊大助教授就任後、黄春雄先生、野尻正寿先生、児玉伸二先生が医長を務められました。

第5代・渡辺敏先生の時に熊大の皮膚科と泌尿器科が分離したものの当院は皮膚泌尿器科のままで色々ご苦労があったようです。しかしご尽力の甲斐もあり1967年1月に中村隆智先生が皮膚科医長に昇任し、皮膚科・泌尿器科の分離が達成されました。

第7代・井上勝平先生は「糖尿病と皮膚疾患」で第4回塩田賞を受賞、1977年には宮崎医科大学の初代皮



膚科教授に就任されました。続く菊池一郎先生は当院で発見した先天性示指爪甲形成異常症（Iso-Kikuchi syndrome）を提唱、宮崎医大助教授、宮古南静園園長を歴任されました。藤澤明詔先生は本院の患者だったプロリダーゼ欠損症に関して画期的な業績を残され、現在も上天草市、熊本市でご活躍中です。第10代医長は桑原司先生でしたが在任中に逝去され、1988年よりご存知の方も多いと思いますが、前川嘉洋先生が着任されました。膠原病・強皮症がご専門で当時の熊病は県内膠原病の中心的存在でありました。2005年まで医長・部長を務め、多くの後進を指導されました。奄美和光園園長を経て現在は熊本市内で開業されています。

その後は萱島研一、加口敦士、浅尾香恵の各先生が医長を務められた後、2011年牧野公治が医長を拝命、中村家政先生から数えて15代、現在に至っています。

本稿を著すに当たり菊池一郎先生にご指導を賜りました、この場を借りて深謝いたします。

【皮膚科医長 牧野公治】

—— 参考文献 ——

「日本皮膚科白書」日本皮膚科学会発行、2003年
「国立熊本病院三十周年記念誌」

小林節昭編集、1976年

「熊本大学医学部皮膚科教室創立70周年記念誌」

小野友道発行、1993年

「Face a world audience」菊池一郎著、2006年



第18回 国立病院機構熊本医療センター医学学会が開催されました

去る1月19日に第18回国立病院機構熊本医療センター医学学会が開催されました。今回は診療部から22題、看護部から4題、検査科・事務部から各2題、地域医療連携室・診療放射線科・臨床工学技士・薬剤科・治験センター・看護学校から各1題、外部から1題の計37題の発表がありました。貴重な症例の報告や治療成績の解析、病院管理面での工夫など多種類の発表がなされました。全体に発表時間は順守され、分かり易いプレゼンが行われました。中でも、神経内科と小児科は基幹病院間のタイムリーな連携で重症の患者を無事助けることができた症例を報告し、新たな地域連携の方向性を示したものと思います。また、看護部からは優れたコホート研究の発表がみられました。全体に発表のレベルは上がってきていると感じました。今後は、発表した内容を論文にして、記録に残していただきたいと思います。



田尻クリニック深田先生の発表の様子



左：発表される深田先生

左下：熊本地域医療センター
院長 廣田昌彦先生

下：熊本機能病院
理事長 米満弘一郎先生



院内学会の様子

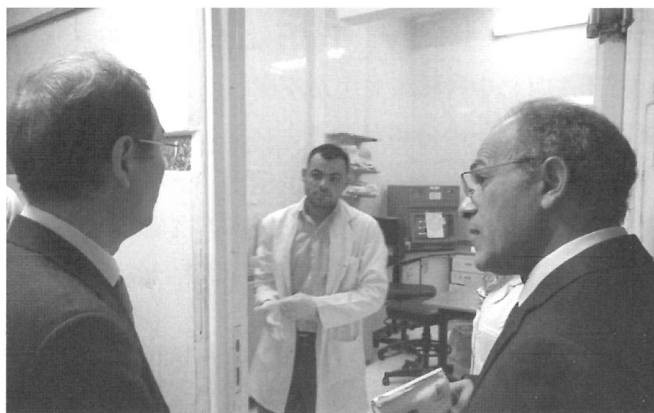
外部からは、熊本地域医療センター院長の廣田昌彦先生、熊本機能病院理事長の米満弘一郎先生に座長の労をおとりいただき、活発な討議をしていただきました。また、田尻クリニックの深田修司先生には非常に示唆に富む症例を発表していただき、大いに会を盛り上げていただきました。心から感謝申し上げます。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)

ファイユーム大学研修報告

昨年末の12月18日、19日に、JICAの第三国研修としてエジプトのファイユーム大学で行われている「中東諸国のための病院感染防止ワークショップ」に講師として参加しました。本研修は昨年2月にも行われ、今回は2回目ですが、その10か月間のファイユーム大学病院の長足の進歩に大変驚きました。前回訪問時、病院の依頼で院内感染対策の面から同病院を視察しました。残念ながら日本の病院環境とはかけ離れており、院内感染対策上多くの問題点を抱えていました。そこで、同病院に対して具体的にどうしたらいいか改善策を提言してきましたが、今回の訪問では私の指摘事項がほとんど実施されていました。もはや日本の病院と遜色ないレベルにまで達したものと思います。民主主義の道を歩みだしたこの国は、間違いなく前に進んでいると実感した次第です。

また、本研修はヨルダン、パレスチナ、イエメンからも研修生が参加していましたが、彼らとも研修を通じて親睦を深めることができました。特に、パレスチナの医師と話していたら、以前当院にJICAの研修で来ていたパレスチナ人医師と同じ病院に勤務している



ハムディ院長案内のもと病院を視察する様子

ことが判り、大いに話が盛り上がりました。これも当院が永らく国際医療協力に関わってきたお蔭だと思いました。

短期間でエジプトを後にしましたが、人懐っこいエジプト人の笑顔と豊かな大自然はとても魅力的です。今後もこの国に何らかの形で関わっていきたいと思います。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)

タイ国コンケン病院訪問報告

1947年に設立されたコンケン病院は867ベッドを有する国立病院ですが、熊本とほぼ同じ人口のコンケン県全体とその周囲の4県におよぶ医療を担っています。コンケン病院とは2009年8月より交流があり、その年の11月16日には当院にて姉妹協定を締結するに至りました。

今回は両病院で計画していた第1回国際カンファレンス出席と見学研修のため、2012年12月13日より20日までタイを訪問しました。熊本医療センター訪問団メンバーは、河野文夫病院長、石橋薫看護部長、山口充医師、安永浩子看護師、引方杏奈看護師、下川里美臨床検査技師、MS. RATION PORNKUNA（熊本大



第1回国際カンファレンスでの記念撮影

学大学院生)、そして私の8名です。その中でも若手は、カンファレンスでの英語発表に続き、山口医師は救急医療や外科手術を体験し、安永看護師と引方看護師はパリアティブケアやプライマリケアの現状を、そして下川検査技師は献血・輸血および検査体制の現場を積極的に視察して回りました。そして各々がコンケン病院スタッフの温かいもてなしを受けました。

このように多職種にわたる交流から、国の垣根を越えた信頼感が生まれ、互いの良い面を学ぶことにより、両院の更なる発展が期待されます。皆により機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

(特殊疾病研究室、国際医療協力室長 武本 重毅)



コンケン病院内ツアー

新任職員紹介



形成外科
つかの 東野 哲志

平素より大変お世話になっております。この度、1月より熊本医療センター 形成外科に勤務となりました東野哲志（つかのてつし）と申します。以前、同病院には、初期臨床研修を含めて5年間お世話になりました。当時はまだヘリポートはありませんでしたが、

現在は月10件程ヘリでの搬送があると聞きました。形成外科領域でも、広範囲熱傷や多発外傷、指趾切断等でのヘリ搬送も有ると思います。事故等無いことに越したことはありませんが、患者様搬送の際は尽力致します。

形成外科は馴染みの無い科かもしれませんが、体表面の疾患や顔面骨に関しましては外科的治療、保存的治療問わず診療しております。ご紹介等ありましたらいつでも気軽にご相談いただけましたら幸いです。まだまだ若輩で頼りないかもしれませんが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

最近のトピックス

小児の貧血とピロリ菌感染症



小児科部長

高木 一孝

小児の貧血は年齢的にみると乳児期と思春期に多くみられます。いずれも成長著しい時期にあたり、鉄の相対的不足による鉄欠乏性貧血が大部分です。とくに思春期の女子は生理や過剰なダイエットによる鉄の摂取不足から貧血をおこしやすい年頃です。また激しい運動に伴うスポーツ貧血も思春期にみられ、大量の発汗による鉄の喪失、ランニングの足底衝撃による赤血球の機械的破壊、血尿、消化管出血などが原因といわれています。

このような思春期のこどもの貧血で鉄欠乏性貧血あるいはスポーツ貧血として鉄剤を投与されているにもかかわらず、貧血の改善が思わしくない、いったん改善しても鉄剤の中止により再び貧血を繰り返すなど、治療効果が安定しない場合にはピロリ菌感染による鉄欠乏性貧血を疑う必要があります。

日本での小児のピロリ菌感染率は10%前後と推定され、感染経路は家族内感染、とくに母子感染が主要なルートと考えられています。したがってピロリ菌感染の家族歴がある場合、あるいはピロリ菌が未検査でも家族に消化管潰瘍や貧血がみられる場合にはピロリ菌感染が疑われます。

診断は鉄欠乏性貧血の所見（小球性低色素性貧血、血清鉄低値、血清フェリチン低値）に加えて、ピロリ

菌抗体を参考に、尿素呼気試験や内視鏡所見（鳥肌様結節性胃炎、迅速ウレアーゼ試験、粘膜表層のピロリ菌存在）、便中抗原試験によりなされます。鉄剤投与中の場合は血清鉄やフェリチン値は必ずしも低値をとらないために注意が必要です。貧血がおこる機序としてピロリ菌感染による胃の低酸～無酸症、アスコルビン酸低下による鉄吸収の障害やピロリ菌増殖のための鉄消費などが考えられています。

治療は成人と同じく一次除菌としてPAC療法（PPI+AMPC+CAM：1週間内服）をおこないます。最近ではCAM耐性ピロリ菌の増加傾向がみられるため、一次除菌に失敗し二次除菌PAM療法（PPI+AMPC+MNZ：1週間内服）を要することも少なくありません。治療が奏功した場合には鉄剤の内服を必要とせずピロリ菌の除菌のみで貧血が治ることも報告されています。副作用は下痢、軟便、味覚異常など軽度なものが多く小児の14%程度に認められます。

※PPI オメプラゾール

(1.0mg/kg/日 分2、max40mg/日)

AMPC アモキシシリン

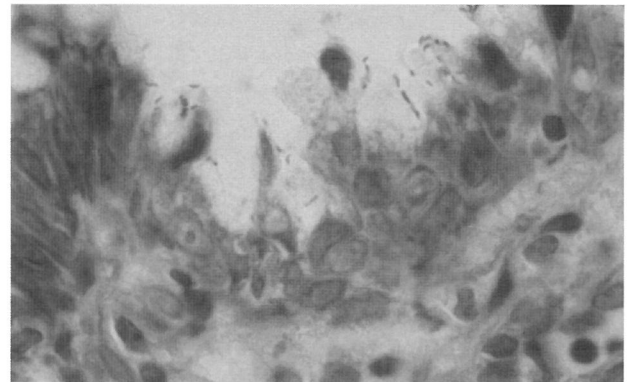
(50mg/kg/日 分2、max 1,500mg/日)

CAM クラリスロマイシン

(20mg/kg/日 分2、max 800mg)

MNZ メトロニダゾール

(10～20mg/kg/日 分2、max 1,000mg)



粘膜表に多数の菌体を認める

除菌により貧血の改善がみられたピロリ菌感染症の5症例

	年齢	性別	部活	Hb (g/dl)	家族歴	家族歴(ピロリ菌)	除菌
1	14歳	男児	野球部	6.8	母貧血	ピロリ未検	二次除菌
2	12歳	女児	バレー部	9.7	母胃潰瘍	ピロリ陽性	二次除菌
3	13歳	男児	野球部	7.9	母胃潰瘍	ピロリ未検	一次除菌
4	13歳	女児	バレー部	8.5	母十二指腸潰瘍	ピロリ陰性	二次除菌
5	12歳	女児	バスケット部	9.4	父胃潰瘍	ピロリ未検	二次除菌

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ72回

「救命救急センターにおける脳梗塞患者のせん妄発症状況と影響因子について」

救命救急センター看護師 西野 一史



11月に行われた第66回国立病院総合医学会において、ポスター展示をはじめ口演において63題の当院の研究成果の発表が行われました。研究がされている分野も幅広く、看護の分野での一例だけでも「ICUにおける栄養プロトコル導入と検証」「広汎性子宮全摘術を受けた患者の早期自己導尿指導による効果」「救命救急センターにおける脳梗塞患者のせん妄発症状況と影響因子」「中途採用看護師の不安の内容と困難を乗り越えられた要因についての予備調査」「急性期救急病院における緩和ケア教育の成果と課題」など幅広い分野で研究が行われています。

当院で多数の研究がなされている中で、私が携わった研究について紹介させていただきます。私は昨年「救命救急センターにおける脳梗塞患者のせん妄発症状況と影響因子」について看護研究に取り組みました。救命救急センターは入院患者の多くがせん妄状態となり、調べてみるとその約40%を脳梗塞患者が占めているということがわかりました。先行文献によると「せん妄は早期に、軽症のうちに見極め、適切なアセスメントに基づいた治療・ケアにつなぐことが重要」といわれています。そのため、脳梗塞入院患者のせん妄発症に関係する因子について明らかにすることを目的に研究に取り組みました。対象は40歳以上で脳梗

塞の診断をうけ、入院時の意識レベルがJCS0~2桁までの患者31名を選定しました。データ収集方法は日本語版NEECHAM混乱・錯乱スケールを用いてせん妄の判定を行いました。データ収集方法はせん妄発症の要因に関する文献を参考に、準備因子、直接因子、促進因子の3つに分類し、準備因子は年齢、性別、日常生活自立度などの5項目、直接因子は脳梗塞部位、麻痺の有無、意識レベルなどの6項目、促進因子は安全带使用、安静度、胃管の有無などの9項目としました。結果は対象者31名中、せん妄発症したのは25名(80.6%)で、男性は11名、女性は14名でした。せん妄発症平均年齢は78.2歳、平均せん妄発症時期は入院時より1.28病日、せん妄の平均持続時間は4.6日でした。せん妄発症に関与する因子で有意差があったものは、準備因子では年齢、日常生活自立度、直接因子では意識レベル、促進因子では安全带使用、胃管の有無でした。3つの因子で看護師が介入できるのは促進因子と言われています。そのため、今回の研究結果をふまえた看護に取り組みたいと考えています。他の病棟でもせん妄を発症される患者さんはいらっしゃると思います。今回の研究結果を少しでも活かしていただけたらと思います。

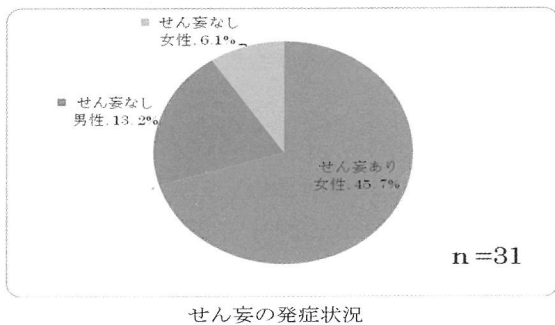


表1 せん妄の準備因子

せん妄の準備因子	せん妄発症有り群 (n=25)		せん妄発症無し群 (n=6)		合計 n	有意差
	n	%	n	%		
年齢	45~49(歳)	0	0%	2	33%	2
	50~54	1	4%	0	0%	1
	55~59	1	4%	0	0%	1
	60~64	1	4%	0	0%	1
	65~69	3	12%	1	17%	4
	70~74	2	8%	0	0%	2
	75~79	2	8%	3	50%	5
	80~84	4	16%	0	0%	4
	85~89	7	28%	0	0%	7
	90~	4	16%	0	0%	4
平均年齢(歳)	78.2		86.7			P=0.027
性別	男性	11	44%	4	66%	15
	女性	14	56%	2	34%	16
認知症	あり	7	28%	0	0%	7
	なし	18	72%	6	100%	24
脳血管障害の既往の有無	あり	5	20%	3	50%	8
	なし	20	80%	3	50%	23
入院前の日常生活自立度	J	8	32%	6	100%	14
	A	8	32%	0	0%	8
	B	8	32%	0	0%	8
	C	1	4%	0	0%	1

表2 せん妄の直接因子

せん妄の直接因子	せん妄発症有り群 (n=25)		せん妄発症無し群 (n=6)		有意差
	n	%	n	%	
脳梗塞部位	右	9	36%	2	33%
	左	15	60%	3	50%
	その他	1	4%	1	17%
	なし	22	88%	3	50%
麻痺	あり	3	12%	3	50%
	なし	19	76%	4	66%
構音障害	あり	8	32%	2	34%
	なし	20	80%	4	66%
意識レベル	0	0	0	0%	
	1	4	16%	1	16%
	2	3	12%	0	0%
	3	9	36%	0	0%
	10	8	32%	0	0%
体温の異常	あり	30	100%	4	66%
	なし	1	4%	2	34%
経皮的酸素飽和度異常	あり	12	48%	1	16%
	なし	13	52%	5	84%
梗塞部位	右	9	36%	2	33%
	左	15	60%	3	50%
	その他	1	4%	1	17%

表3 せん妄の促進因子

せん妄の促進因子	せん妄発症有り群 (n=25)		せん妄発症無し群 (n=6)		有意差
	n	%	n	%	
入院時間	日勤帯	12	48%	1	16%
	夜交番	9	36%	2	34%
	深夜番	4	16%	3	50%
部屋	フロア	25	100%	6	100%
	4人部屋	0	0%	0	0%
	観望室	0	0%	0	0%
点滴	1本	8	32%	3	50%
	2本	17	68%	3	50%
安全带	あり	22	88%	0	0%
	なし	3	12%	6	100%
安制度	ベッド上	15	60%	3	50%
	制限なし	10	40%	3	50%
薬剤使用	あり	10	40%	0	0%
	なし	15	60%	6	100%
家族面会	あり	19	76%	6	100%
	なし	6	24%	0	0%
胃管	あり	18	72%	0	0%
	なし	7	28%	6	100%
尿道留置カテーテル	あり	11	44%	0	0%
	なし	14	56%	6	100%
モニター	あり	25	100%	6	100%
	なし	0	0%	0	0%
薬剤使用	あり	9	36%	0	0%
	なし	16	64%	6	100%

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{ほんごう}本郷 ^{たかひろ}貴大



こんにちは。研修医1年目の本郷貴大と申します。地元は熊本で、熊本大学を卒業し、4月より当院で初期臨床研修をさせて頂いております。研修が始まってから、すでに8カ月が経ちました。すでに研修期間の3分の1が過ぎてしまったかと思うと、これまで以上に毎日を大切に働かなければならないと実感しております。

私はこれまでに、神経内科、外科、消化器内科、麻酔科を2カ月ずつ研修させて頂きました。

神経内科では、まずは問診の大切さを学びました。当院を受診することになった経緯や既往歴・内服薬、そして発症した時の状況など様々な事を知ることは、

その後の治療方針の決定の鍵にもなります。当院は救急病院であるため、脳梗塞、脳炎、てんかんなどの救急疾患を中心に勉強させて頂きました。脳梗塞は軽症から重症まで幅広く、後遺症がなく退院される方がおられる一方で、残念ながら亡くられる方もおられ、改めて「命の重み」や「命に携わる仕事の重圧感・責任感」を感じました。

麻酔科では、手術前日に患者さんの術前評価を行います。心電図・肺機能・血液検査・心臓超音波検査などの理学所見や、開口制限の有無・歯牙の状態・呼吸音などの身体所見を十分にチェックし、本当に麻酔や手術に耐えられる状態なのかを評価します。また、手術中はバイタルや呼吸状態などを常に把握し、手術が安全に行えるよう、術後患者さんの痛みを抑えるよう適切な麻酔をかける方法を学びました。

指導医の先生方やコメディカルスタッフの方々は非常に親切で、ときに厳しくときに優しく指導してくださり、とても実りのある8カ月を過ごすことができました。この先まだまだご迷惑をおかけすること多いと思いますが、これからの研修期間そしてその先ずっと、初心を忘れずに励んで参りたいと思います。

臨床研修医

1年次 ^{やの}矢野 ^{ともみ}ともみ



こんにちは。研修医一年目の矢野ともみと申します。研修が始まってあっという間に8か月ほど経ちました。私は今まで循環器、外科、血液内科、麻酔科、消化器内科をローテートしました。

循環器では、心臓カテーテルを数多く見学し、スワングツカテーテル挿入など学びました。最初の頃、カテーテル中に患者さんが心室細動になって、除細動をしなければならない場面に遭遇したことがありました。その時は、ただただ焦って、何も体が動かず、指導医の先生達が処置していくのを見ているだけでしたが、次に同様の場面に遭遇した時、初回の時よりは焦らず対応できました。

外科では、縫合やCV挿入などの手技を学びました。私は不器用で、縫合や穿刺が苦手でしたが、指導医の

先生達が手技の機会を何回も作ってくださり、ちょっとずつ上達していきました。

血液内科では、骨髄移植や化学療法など、専門性の高い治療を学んだり、骨髄穿刺や化学療法のルート確保、CV穿刺などの手技も学びました。血液内科の免疫低下状態の患者さんが感染症を起こすと、抗菌薬の使い方が、他科の患者さんと全然違うのが印象に残っています。

麻酔科ではルート確保、気管挿管、脊髄くも膜下麻酔などの手技と、術前評価、術中管理全身管理など学びました。外科の時と同様、麻酔科でも、私は手技が苦手で苦労しましたが、指導医の先生達は根気強く教えて下さいました。

現在回っている消化器内科では、腹部エコーや内視鏡検査を経験しています。

約2か月ごとに各診療科を移動しているので、病棟業務に慣れたところに終わる、というパターンに陥り、その診療科の勉強が、なかなかできていないので反省することが多いですが、指導医の先生やコメディカルスタッフの方々や同期の研修医達に恵まれているので、これからも成長していきたいと思っています。

■ 研修のご案内 ■

第76回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年2月1日(金)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長

野村 一俊

「病院機能評価の新たな展開」

横浜市立大学付属病院 医療安全管理学教授

橋本 勉生 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

第29回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成25年2月2日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：熊本市立熊本市市民病院診療部長

橋本 洋一郎 先生

演題：「脳卒中治療」

- | | | |
|---------------------|-----------------------|-------|
| 1. 血栓溶解療法について | 国立病院機構熊本医療センター神経内科 | 幸崎弥之助 |
| 2. 抗血小板/凝固薬の使用法について | 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 | 田北 智裕 |
| 3. くも膜下出血の外科治療について | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 | 吉里 公夫 |
| 4. 脳梗塞の外科治療について | 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 | 大塚 忠弘 |

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第169回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年2月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「ACTH単独欠損症が疑われた透析患者の一例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

信岡謙太郎

4. ミニレクチャー「急性脳梗塞治療の変遷」

国立病院機構熊本医療センター神経内科

幸崎弥之助

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第137回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成25年2月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「バセドウ病と複視を認めた1型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

久木山直貴、内原智幸、信岡謙太郎、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

2. 「インスリン療法におけるカーボカウントの実際」

国立病院機構熊本医療センター管理栄養士

下津 浩子

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第123回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成25年2月27日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「外因性疾患」

国立病院機構熊本医療センター外科部長

宮成 信友

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長

橋本 伸朗

国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長

大塚 忠弘

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2013年 研修日程表 2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研修室	その他
1日 金	19:00~20:30 第76回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「病院機能評価の新たな展開」 横浜市立大学附属病院医療安全管理学教授 橋本 雅生		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 C1 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
2日 土	15:00~17:30 第29回 症状・疾患別シリーズ [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 熊本市立熊本市市民病院診療部長 橋本洋一郎 「脳卒中治療」 1. 血栓溶解療法について 国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助 2. 抗血小板/凝固薬の使用法について 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 3. くも膜下出血の外科治療について 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 吉里 公夫 4. 脳梗塞の外科治療について 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘		
4日 月			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
5日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
6日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞治療の実際」 国立病院機構熊本医療センター神経内科 幸崎弥之助		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
8日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
9日 土	13:00~15:30 第127回 看護卒後研修 「訪問看護、在宅看護」 九州看護福祉大学看護福祉学部看護学科准教授 開田ひとみ		
12日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:30 外科術前症例検討会 C1 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
13日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「肺炎治療の実際」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 柏原 光介	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
15日 金		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
16日 土	14:00~16:00 第243回 滅菌消毒法講座		
18日 月	19:00~20:30 第169回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
19日 火			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
20日 水			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
21日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「薬剤科からのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター薬剤科長 真鍋 健一 20:00~21:30 第62回 医歯連携セミナー 「上顎洞疾患に対する耳鼻科的治療戦略」 国立病院機構熊本医療センター耳鼻咽喉科医長 上村 尚樹	19:00~20:45 第137回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2>0.5単位認定]	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
22日 金			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1
24日 日	8:30~17:00 日本臨床細胞学会熊本県支部学会		
25日 月			7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
26日 火	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1
27日 水	18:30~20:00 第123回 救急症例検討会 「外因性疾患」		7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
28日 木	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「リスクマネジメントからのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター医療安全管理係長 徳永 雄規	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~ 8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)